

房総半島南端、千倉層群布良層における褶曲起源の古地磁気方位異常

Paleomagnetic direction anomaly derived from folding in Mera Formation, Chikura Group, southernmost part of the Boso Peninsula

浜田 毅[1]; 岡田 誠[1]

Takeshi Hamada[1]; Makoto Okada[1]

[1] 茨大・理・環境

[1] Dept. Env. Sci., Ibaraki Univ.

上部鮮新統の千倉層群布良層は、房総半島南端地域の館山市から白浜町にかけての海岸に分布しており、ほぼ同一の走向傾斜を持つ北西部と向斜と背斜が幾度も繰り返している南東部に分けられる。

北西部、南東部の両方から試料を採取し、古地磁気測定を行ったところ、北西部で採取した試料からは地球双極子磁場から予測される方位に近い古地磁気方位を得ることができたが、南東部の試料では伏角の値が浅くなっていた。

帯磁率異方性の測定結果を見ると、北西部の試料では短軸が層理面に垂直な方向に集中するのに対して、南東部の試料では短軸が褶曲軸方向に直行する方向に回転しているように見えた。これは試料中の磁性粒子が何らかの影響で回転したことを示している。

これらの結果から考えると、南東部の試料では褶曲による地層の変形の影響で磁性粒子が回転したために、帯磁率異方性や磁化方位に異常が現れていると思われる。